

第 137 回日商簿記検定試験 模範解答

2 級

商 業 簿 記

第 1 問

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	横 浜 支 店	86,000	埼 玉 支 店	86,000
2	売 掛 金	900,000	試 用 品 売 上	900,000
	仕 入	750,000	試 用 品	750,000
3	修 繕 引 当 金	150,000	未 払 金	180,000
	修 繕 費	30,000		
4	当 座 預 金	150,000,000	資 本 金	75,000,000
			資 本 準 備 金	75,000,000
	創 立 費	2,060,000	当 座 預 金	2,060,000
5	未 収 金	4,918,000	売 買 目 的 有 価 証 券	4,930,000
	有 価 証 券 売 却 損	40,000	有 価 証 券 利 息	28,000

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 2 問

問 1

銀 行 勘 定 調 整 表

平成 26 年 3 月 31 日

銀行の残高証明書の残高	(268,400)
加算 : [④]	(66,000)
減算 : [①]	(23,000)
[②]	(34,000)
[③]	(20,000)
企業の当座預金勘定の残高	(257,400)

問 2

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①	仕 訳 な し			
②	当 座 預 金	34,000	売 掛 金	34,000
③	当 座 預 金	20,000	買 掛 金	20,000
④	仕 訳 な し			

問 3

貸借対照表に計上される当座預金の金額

¥ 311,400

問 1 1 つにつき 2 点

問 2 各 2 点

問 3 2 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 3 問

損 益 計 算 書

自平成 25 年 4 月 1 日 至平成 26 年 3 月 31 日

(単位：円)

I 売 上 高		(20,088,000)
II 売 上 原 価		
1 期首商品棚卸高	(1,301,000)	
2 当期商品仕入高	(18,500,000)	
合 計	(19,801,000)	
3 期末商品棚卸高	(1,240,000)	
差 引	(18,561,000)	
4 棚卸減耗損	(30,000)	
5 (商品評価損)	(15,840)	(18,606,840)
(売上総利益)		(1,481,160)
III 販売費および一般管理費		
1 給 料	(1,103,740)	
2 旅 費 交 通 費	(80,800)	
3 水 道 光 熱 費	(23,400)	
4 保 険 料	20,000	
5 消 耗 品 費	(25,900)	
6 減 価 償 却 費	(35,960)	
7 (商 標 権 償 却)	(20,000)	
8 貸倒引当金繰入	(53,110)	
9 退職給付費用	(32,000)	(1,394,910)
(営業利益)		(86,250)
IV 営業外収益		
1 受 取 利 息		(5,750)
V 営業外費用		
1 支 払 利 息	(26,000)	
2 (手 形 売 却 損)	(30,500)	(56,500)
経 常 利 益		(35,500)
VI 特 別 利 益		
1 (固定資産売却益)		(66,000)
VII 特 別 損 失		
1 災 害 損 失		1,500
税引前当期純利益		(100,000)
法人税、住民税及び事業税		(40,000)
(当期純利益)		(60,000)

1 つにつき 2 点 合計 20 点
(配点は、当学院の予想です)

工 業 簿 記

第 4 問 (20 点)

製 造 原 価 報 告 書

(単位 : 円)

I 材 料 費

1. 期首材料棚卸高 120,000

2. 当期材料仕入高 (9,880,000)

合 計 (10,000,000)

3. 期末材料棚卸高 (150,000) (9,850,000)

II 労 務 費

1. 賃 金 (4,360,000)

2. 給 料 (300,000) (4,660,000)

III 経 費 (5,390,000)

合 計 (19,900,000)

製造間接費配賦差異 (100,000)

当 月 製 造 費 用 (19,800,000)

期首仕掛品棚卸高 (200,000)

合 計 (20,000,000)

期末仕掛品棚卸高 (300,000)

当期製品製造原価 19,700,000

仕 掛 品	
前 期 繰 越 (200,000)	当 期 完 成 高 (19,700,000)
直 接 材 料 費 8,295,000	次 期 繰 越 (300,000)
直 接 労 務 費 (3,835,000)	
製 造 間 接 費 (7,670,000)	
(20,000,000)	(20,000,000)

仕訳 1 組につき 2 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 5 問 (20 点)

組 別 総 合 原 価 計 算 表

(単位：円)

	X 製 品		Y 製 品	
	直接材料費	加 工 費	直接材料費	加 工 費
月 初 仕 掛 品 原 価	451,000	129,400	—	—
当 月 製 造 費 用	2,370,000	1,701,000	1,545,000	924,000
合 計	2,821,000	1,830,400	1,545,000	924,000
月 末 仕 掛 品 原 価	546,000	230,400	—	—
完 成 品 総 合 原 価	2,275,000	1,600,000	1,545,000	924,000

損 益 計 算 書

(単位：円)

I 売 上 高

7,520,000

II 売 上 原 価

1 月 初 製 品 棚 卸 高

(920,000)

2 当 月 製 品 製 造 原 価

(6,344,000)

合 計

(7,264,000)

3 月 末 製 品 棚 卸 高

(1,191,000)

(6,073,000)

売 上 総 利 益

(1,447,000)

1 つにつき 2 点 合計 20 点
(配点は、当学院の予想です)

【2 級解説】

第 1 問

1. 会社全体での仕訳を考えると「広告宣伝費を現金で支払った」という取引です。この取引を本店と支店でどのように計上するかを考えます。

(廣 告 宣 伝 費)	86,000	(現 金 預 金)	86,000
---------------	--------	-------------	--------

広告宣伝費は横浜支店のものなので、「広告宣伝費」が計上されるのは横浜支店、現金で支払ったのは埼玉支店なので「現金」は埼玉支店で減少させます。なお、本店集中計算制度では各支店で計上された上記科目の相手科目を「本店」とします。

横浜支店の仕訳

(廣 告 宣 伝 費)	86,000	(本 店)	86,000
---------------	--------	---------	--------

埼玉支店の仕訳

(本 店)	86,000	(現 金 預 金)	86,000
---------	--------	-------------	--------

2. 試用販売については、買取の意思表示があったときに売上を計上し、あわせてその原価を「試用品」勘定から「仕入」勘定に振り替えます。
3. 修繕引当金で充当できない部分は「修繕費」勘定で処理します。
4. 株式発行時の資本金組入額
- 原則・・・払込金額の総額を資本金とします。
- 例外・・・払込金額の 2 分の 1 以上を資本金とし、資本金としなかった部分は「資本準備金」とします。ゆえに資本金組入の最低限度額は払込金額の 2 分の 1 となります。

株式発行時の諸費用

会社設立時・・・「創立費」勘定で処理します。

増 資 時・・・「株式交付費」勘定で処理します。

$$5. \text{社債の帳簿価額} : ¥5,000,000 \times \frac{\textcircled{¥98.6}}{\textcircled{¥100}} = ¥4,930,000$$

$$\text{社債の売却価額} : ¥5,000,000 \times \frac{\textcircled{¥97.8}}{\textcircled{¥100}} = ¥4,890,000$$

$$\text{端数利息} : ¥5,000,000 \times 1.46\% \times \frac{140 \text{日}}{365 \text{日}} = ¥28,000$$

第 2 問

銀行勘定調整表には「企業残高基準法」「銀行残高基準法」「並列法」の 3 つがありますが、「並列法」は企業側と銀行側の加算・減算項目がわかりやすいので、これを元に作成します。

銀 行 勘 定 調 整 表			
平成 26 年 3 月 31 日			
当座預金出納帳残高	257,400	銀行残高証明書残高	268,400
加算：(②未記入)	34,000	加算：(④時間外預入現金)	66,000
(③未渡小切手)	20,000	減算：(①未取付小切手)	23,000
	<u>311,400</u>		<u>311,400</u>

銀行残高 ¥268,400 から企業残高を求めるには、以下のように不一致金額を加減算します。

$$¥268,400 + ¥66,000 - ¥23,000 - ¥20,000 - ¥34,000 = ¥257,400$$

第3問

＜損益計算書の区分＞

売 上 高	主たる営業活動(本業)に係る損益が記載されます。よって、商品売買に関連する収益・費用を記載し、そこから計算される利益が営業利益となります。
売 上 原 価	
売 上 総 利 益	
販売費及び一般管理費	
営 業 利 益	本業以外の取引にかかわる損益で每期経常的に発生するものが記載されます。よって、商品売買と関連しない財務・金融上の収益・費用等を記載し、そこから計算される利益が経常利益となります。
営 業 外 収 益	
営 業 外 費 用	
経 常 利 益	
特 別 利 益	本業以外の取引にかかわる損益で臨時的・偶発的に発生するものが記載されます。
特 別 損 失	
税引前当期純利益	

〔資料Ⅱ〕

1. 土地について

(現 金 預 金)	150,000	(土 地)	84,000
		(固 定 資 産 売 却 益)	66,000

2. 手形の割引について

(現 金 預 金)	497,500	(受 取 手 形)	500,000
(手 形 売 却 損)	2,500		

〔資料Ⅲ〕

1. 貸倒引当金の設定について

(貸 倒 引 当 金 繰 入)	53,110 *	(貸 倒 引 当 金)	53,110
-------------------	----------	---------------	--------

決算整理後の貸倒引当金残高が貸倒見積高(受取手形及び売掛金期末残高の1%)になるように、決算整理前残高との差額を繰り入れます。

* 受取手形：¥2,022,000－¥500,000＝¥1,522,000

売掛金：¥5,089,000

∴ (¥1,522,000＋¥5,089,000)×1%－¥13,000＝¥53,110
前T/B貸倒引当金

2. 売上原価の算定について

(仕 入)	1,301,000 *1	(繰 越 商 品)	1,301,000
(繰 越 商 品)	1,240,000	(仕 入)	1,240,000 *2
(棚 卸 減 耗 損)	30,000 *3	(繰 越 商 品)	45,840
(商 品 評 価 損)	15,840 *4		
(仕 入)	45,840 *5	(棚 卸 減 耗 損)	30,000
		(商 品 評 価 損)	15,840

売上原価の算定仕訳は「仕入」勘定や「売上原価」勘定を使用する方法がありますが、いずれの場合も損益計算書上の表示は同じです。

*1 期首商品棚卸高：決算整理前「繰越商品」勘定より

*2 期末商品帳簿棚卸高：問題文資料より

*3 ¥1,210,000－¥1,240,000＝△¥30,000

*4 $(@¥500 - @¥420) \times 48 \text{ 個} + (@¥350 - @¥150) \times 60 \text{ 個} = ¥15,840$

*5 問題指示により、棚卸減耗損と商品評価損を売上原価(「仕入」勘定)に振り替えます。

3. 未払費用について

(未 払 費 用)	37,000	(給 料)	35,000
		(水 道 光 熱 費)	2,000
(給 料)	50,000	(未 払 費 用)	52,400
(水 道 光 熱 費)	2,400		

4. 消耗品について

(消 耗 品)	5,100	(消 耗 品 費)	5,100
-----------	-------	-------------	-------

決算整理前試算表に「消耗品費」勘定(費用)が計上されているため、購入時に費用処理していることが判明します。よって、決算時に未使用分を「消耗品」勘定(資産)に振り替えます。

5. 退職給付について

(退 職 給 付 費 用)	32,000	(退 職 給 付 引 当 金)	32,000
-----------------	--------	-------------------	--------

6. 利息について

(未 収 利 息)	750 ^{*1}	(受 取 利 息)	750
(未 収 利 息)	3,000 ^{*2}	(受 取 利 息)	3,000
(支 払 利 息)	6,000 ^{*3}	(未 払 利 息)	6,000

$$*1 \quad ¥500,000 \times 0.6\% \times \frac{3 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥750$$

$$*2 \quad ¥500,000 \times 0.9\% \times \frac{8 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥3,000$$

$$*3 \quad ¥1,000,000 \times 2.4\% \times \frac{3 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥6,000$$

7. 減価償却について

(減 価 償 却 費)	5,710	(建 物 減 価 償 却 累 計 額)	4,960 ^{*1}
		(備 品 減 価 償 却 累 計 額)	750 ^{*2}

*1 既存分：3 月度分 ¥2,000 を計上します。

$$\text{新規分：} ¥148,000 \div 25 \text{ 年} \times \frac{6 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥2,960$$

*2 3 月度分 ¥750 を計上します。

8. 商標権について

(商 標 権 償 却)	20,000 [*]	(商 標 権)	20,000
---------------	---------------------	-----------	--------

取得してから前期末まで 3 年が経過しているため、決算整理前試算表の残高 ¥140,000 を残り 7 年で償却します。

$$* \quad ¥140,000 \div (10 \text{ 年} - 3 \text{ 年}) = ¥20,000$$

9. 法人税等について

(法 人 税 等)	40,000 [*]	(未 払 法 人 税 等)	40,000
-------------	---------------------	-----------------	--------

$$* \quad ¥100,000 (\text{税引前当期純利益}) \times 40\% = ¥40,000$$

第 4 問

Ⅱ 労務費

直接工賃金：¥3,815,000－¥200,000＋¥220,000＝¥3,835,000

間接工賃金：¥545,000－¥100,000＋¥80,000＝¥525,000 賃金計¥4,360,000

給 料：¥290,000－¥40,000＋¥50,000＝¥300,000

Ⅲ 経 費

¥1,500,000＋¥1,200,000＋¥2,400,000＋¥290,000＝¥5,390,000

製造間接費配賦差異

実際発生額：¥1,555,000＋¥525,000＋¥300,000＋¥5,390,000＝¥7,770,000

予定配賦額：直接労務費¥3,835,000×200%＝¥7,670,000

∴ ¥7,670,000－¥7,770,000＝△¥100,000(借方(不利)差異)

第 5 問

当月加工費¥2,625,000 については機械作業時間を基準に各組へ実際配賦します。

X 製品への配賦額：¥2,625,000 × $\frac{405\text{時間}}{405\text{時間}+220\text{時間}}$ = ¥1,701,000

Y 製品への配賦額：¥2,625,000 × $\frac{220\text{時間}}{405\text{時間}+220\text{時間}}$ = ¥924,000

X 製品の計算

直 接 材 料 費		
月初＋投入	完成	
¥451,000	2,500 個	¥2,275,000
+	月末	
¥2,370,000	600 個	¥546,000

月末仕掛品原価

(¥451,000＋¥2,370,000)

× $\frac{600\text{個}}{2,500\text{個}+600\text{個}}$ = ¥546,000

∴ X 製品完成品総合原価：¥2,275,000＋¥1,600,000＝¥3,875,000

加 工 費 (数量は完成品換算量)		
月初＋投入	完成	
¥129,400	2,500 個	¥1,600,000
+	月末	
¥1,701,000	360 個	¥230,400

月末仕掛品原価

(¥129,400＋¥1,701,000)

× $\frac{360\text{個}}{2,500\text{個}+360\text{個}}$ = ¥230,400

Y 製品の計算

直 接 材 料 費		
投入	完成	
¥1,545,000	1,800 個	¥1,545,000

加 工 費 (数量は完成品換算量)		
月初＋投入	完成	
¥924,000	1,800 個	¥924,000

∴ X 製品完成品総合原価：¥1,545,000＋¥924,000＝¥2,469,000

売上原価の計算

X 製 品		
月初＋投入	販売	
¥649,000	2,400 個	¥3,744,000
＋	月末	
¥3,875,000	500 個	¥780,000

月末製品原価

(¥649,000＋¥3,875,000)

$$\times \frac{500\text{個}}{2,400\text{個}+500\text{個}} = ¥780,000$$

Y 製 品		
月初＋投入	販売	
¥271,000	1,700 個	¥2,329,000
＋	月末	
¥2,469,000	300 個	¥411,000

月末製品原価

(¥271,000＋¥2,469,000)

$$\times \frac{300\text{個}}{1,700\text{個}+300\text{個}} = ¥411,000$$

月初製品棚卸高：¥649,000＋¥271,000＝¥920,000

当月製品製造原価：¥3,875,000＋¥2,469,000＝¥6,344,000

月末製品棚卸高：¥780,000＋¥411,000＝¥1,191,000